

Honda Dream Racing

2016-2017 FIM世界耐久選手権シリーズ (EWC) 最終戦
“コカ・コーラ” 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第40回大会

三重県 鈴鹿サーキット (1周=5.821km)

天候:7月27日(木)曇り 路面:ドライ

7月28日(金)晴れ 路面:ドライ

7月29日(土)晴れ 路面:ドライ

7月30日(日)曇り 路面:ドライ

観客動員数(4日間合計):128,000人

公式予選:12番手(タイム:2分09秒450)

決勝:6位(212周)

最強プライベートを証明する6位入賞

TOHO Racingにとって7回目の鈴鹿8耐は、株式会社ホンダモーターサイクルジャパン様のサポートの下「Honda Dream Racing」としてエントリー。日本全国のHonda Dream店から応援してもらえるチームとして新しいCBR1000RR SP2を事前テストから仕上げて来た。ライダーは、今年もエース・山口辰也を中心に小山知良、そして若手を育成するためにオーディションで選ばれた岩戸亮介を起用した。小山は、マシンに乗る度にタイムを上げ、さすがの走りを披露。初めて1000ccに乗る岩戸も徐々にマシンに慣れて行っていた。



今シーズンは、ニューモデルとなったHonda CBR1000RR SP2が投入されたが、全日本前半戦ではトラブルやセッティング不足が続いていた。また、タイヤも16.5インチから17インチになったことで、その特性にも合わせていかなければならなかった。様々な要因がまとまらず、転倒の少ない山口が転倒することも少なくなかった。事前テストでもニューモデルのパーツが間に合わず、昨年モデルのものを使いテストを行い、レースウイークギリギリに間に合ったパーツも少なくなかった。

木曜日午後のフリープラクティスから始まったレースウイーク。2本のセッションの中で、マシンセットを進め、3人が交代して、その感触を確かめて行った。ベストタイムは2分09秒838で13番手につけていたが、岩戸のペースが事前テストに比べても上がらずにいた。今年から公式予選は、3人（または2人）の平均タイムで争われることになったため、岩戸には、タイムを出してもらわないことにはトップ10に入ることができない状況だった。トップ10トライアルに進出するために、レースウイークで20本という、タイヤ本数制限の中で、どうタイヤを使って行くかを考えて公式予選に臨んだ。

まずはライダーブルーのセッションが始まった。ここで小山は、集団の中につけ、最初の計測ラップに入っていく。自己ベストを更新する走りで東コースから西コースに入り、130Rからシケインへ進入して行くと赤旗が提示されたためアクセルを緩める。その状態でコントロールラインを通過し2分09秒5を記録していたが、そのタイムは抹消されてしまう。赤旗がなければ2分09秒2は出ていたはずであり、2分08秒台には入っていたかもしれない。セッションが再開されるが結局、小山のベストタイムは2分09秒704。岩戸も自己ベストを更新する走りを見せ2分10秒036、山口が2分08秒610と続き、平均タイムは2分09秒450となり12番手。10番手とは、僅かな差だっただけに、小山のアタック中の赤旗が悔やまれる結果となった。

決勝日の朝は、雲が広がり今にも雨が降ってきそうな天気となった。ウォームアップ走行中に、ついに雨が降ってくるが、スタートまでには止み、全車スリックタイヤでスタートした。スタートライダーは、もちろん山口が務めオープニングラップは、8番手、2周目に7番手、3周目に6番手とポジションを上げて来る。このころから雨が降り始める。特に西コースでは雨足が強く、東コースは、ほぼドライという不安定なコンディション。ペースをつかむのが難しい中、Team KAGAYAMAのハフィス・シャーリン選手と5番手争いを繰り広げ前に出ると、さらに前を走るドミニク・エガーター選手をも抜き4番手に浮上する。その後、後方から追い上げて来たマシンに抜かれるものの、すぐにルーティンのピットインに入り、山口から小山にライダー交代を行う。そして岩戸も初めての鈴鹿8耐決勝をバトルもありながら、決して無理をせず着実にバトンをつないだ。

6番手前後を争いながらレースは、残り1時間となる。ここで山口が最後の走行を終え小山にチェンジ。コースに戻ると5番手を走っていた。後方からは、YARTの野左根航汰選手が追いついて来ると、小山をかわして行く。小山も負けずに野左根選手をマークし、チャンスを伺う。しかし、実は小山は、5位争いを繰り広げていたことは知らなかったのだが、ピットは、最後まで小山の走りに盛り上がっていた。結局、5秒ほど届かずゴール。それでもプライベートでは、最高位となる6位でチェッカーフラッグを受けた。



また、鈴鹿4時間耐久には、TOHO Racing代表の福間勇二が野近幸紀と組み2年振りに参戦。途中、転倒するアクシデントもあったが、すぐに再スタートし59台中32位でチェッカーフラッグを受けた。



ライダーレッド 山口辰也コメント

「今シーズンからバイクがニューモデルとなり開幕戦から苦戦して来ましたが、事前テストでもトラブルが出たり、転倒があったり、全く余裕のない状態でしたが、決勝ではノントラブルで、エンジンもすごく走っていて、不安なくライディングができました。これでTOHO Racingの技術力の高さを証明できました。全国のHonda Dreamのお客様に8時間戦う姿をお見せできたこともホッとしています。今年も東広島の皆さん、スポンサーの皆さん、応援して下さった皆さん、本当にありがとうございました」



ライダーブルー 小山知良コメント

「とにかく楽しかったです。チームの皆さんを始め、応援して下さった皆さんに感謝したいです。ウイークに入ってからバイクは、大きなトラブルもなく、コーナーの自由度もあり、すごくエンジンも速かったのでリスクなく走ることができました。初めて履いたブリヂストンタイヤも乗りやすかったですし、レベルの高いマシンを用意してくれたチームに感謝します。最後は5位争いをしているのは知らなかったのですがベストを尽くし、プライベートータートップの6位でゴールできました。応援して下さった皆さん、ありがとうございました」



ライダーイエロー 岩戸亮介コメント

「Honda Dream Racingの一員として鈴鹿8耐を走ることができ、本当にうれしかったです。初めての鈴鹿8耐でしたが、山口選手、小山選手と一緒に走ることができ、チームの皆さんと仕事できたことは、大きな経験になりました。まだまだ自分自身の力のなさを痛感しましたが、これを生かして全日本ロードレース後半戦を戦い、レーシングライダーとして、もっと成長したいと思いました」



チーフメカニック 戸井田剛コメント

「2017年の鈴鹿8耐ほど多くの皆さんに助けていただいたと思った年はありません。本当にご協力いただいた全ての方に感謝したいと思います。ありがとうございました。今年は、マシンが新型となったことで、いろいろやるが多かったですし、転倒もあり、パーツを作ってもらわなくては、いけないものもありましたし、ギリギリ本番に間に合ったものもありました。レースウイークでは、大きなトラブルもなく、順調に走ってくれたことも大きかったと思います。それでもレースでは、何が起こるか不安な部分もありましたが、ライダーが頑張ってくれました。この経験を全日本ロードレース後半戦に活かして行こうと思っています」

監督 福間勇二コメント

「今シーズンは株式会社ホンダモーターサイクルジャパン様のサポートのご協力を頂き、Honda Dream Racingとして鈴鹿8耐に挑むこととなり、全国のHonda Dreamのお客様の応援と、またTOHO Racingを応援してくださっている皆様に応えることができるよう、チーム一同取り組んで参りました。マシンが新型車両ということで、いろいろな面で苦戦がありましたが、皆様の多大なるご協力、ご支援をいただき、鈴鹿8耐決勝ではプライベートではトップの6位入賞を果たすことが出来ました。多くのスポンサーの皆様、応援くださいました皆様、全ての皆様の支えなくしては成し得ることが出来ない結果だと思えます。心より厚く御礼申し上げます。本当に有難うございました。」



株式会社 TOHO
Honda Dream Racing
担当 野口